



「動詞からひろがる人権学習」

を活用した研修の進め方

本書は、参加者が講師の話を一方向的に聴く研修ではなく、参加者どうしが学び合えるような双方向の研修をめざして開発されました。この冊子では、13のエピソードを集めた形式になっていますが、研修において、一つ一つのエピソード中心に使用できるよう、A3版の用紙を二つ折りにしたパンフレット（4ページ）の形式で作成しています。研修を企画する際には、テーマに合ったパンフレットを選んでご活用ください。ここでは、その活用事例を紹介します。

1. パンフレットを中心に参加者の対話やグループでの討議を行う場合

時間	活動	留意点
5分	研修の目的と概要の説明 参加型研修であること、無理をせず自主的に参加することの大切さを伝えます。	●研修の最初にアウトラインを提示することで、参加者の研修への参加意欲を高めます。
5分	アイスブレイキング 「バースデイ・チェーン」や「じゃんけんポン・アイコが勝ち」など、2人組の対話に移れるようなアクティビティを行います。	●この段階でのアクティビティは、参加者の心をほぐすものを選びます。2人1組になるよう着席し、簡単に互いの自己紹介をしてもらってもかまいません。
5分	2人1組の着席とパンフレットの配布	●アイスブレイキングでできた順番で2人1組になってもらいます。
5分	エピソードの読み上げ パンフレットの最初のエピソードを読み上げます。	●黙読では、個人によってスピードが違いますので、進行者が読み上げるようにします。
5分	2人組での対話 エピソードについて「対話のために」などを参考にしながら自由に対話してもらいます。	●時間に余裕がある場合は、ペアを変えて、もう一回対話してもいいでしょう。
5分	対話の内容の発表 2人でどんなことを話したのか、何組かのペアに発表してもらいます。	●すべてのペアに発表してもらう必要はありません。対話の間にどのペアに聞くのかを決めておいてもいいでしょう。
10分	発展編などを利用した情報提供 進行者から、対話の内容についてのコメントをしたり、発展編の資料の説明や問題提起を行います。	●対話から次のグループでの話し合いにつながるような、情報提供をこころがけます。新聞の記事や投書などを準備してもいいでしょう。
20分	グループでの話し合い キーワードの「動詞」をテーマに、グループで自由に話し合います。	●グループの人数は、4人（2つのペア）が最適ですが、多くても5人までにとどめます。

15分	各グループの発表 各グループで話し合ったことを1～2分で紹介し合います。グループでの意見交換だけでなく、全体の意見を聞くことで、参加者どうしの学びを形成します。	●あらかじめ発表者を決めておく方がまとまった発表が得られます。
5分	まとめ 進行者が、出された発表へのコメントなどをしながら、研修のまとめを行います。	●参加者相互の学びを大切にするため、一方的な押しつけにならないよう、まとめを行います。

80分(時間調整のため、グループの発表の前に休憩を入れる場合もあります。)

2. パンフレットとビデオを活用する場合(項目だけの内容は、1. と同じです)

時間	活動	留意点
5分	研修の目的と概要の説明	
5分	アイスブレイキング	
5分	2人1組の着席とパンフレットの配布	
5分	エピソードの読み上げ	
5分	2人組での対話	
5分	対話の内容の発表	
25分	ビデオ(視聴覚教材)の視聴 エピソードに関係したビデオを視聴します。視聴する前に、後からグループでどのような話し合いをするのかを提案します。	●50分以上のビデオになると、それだけで一つの研修になりますので、25分程度のもを選ぶかその程度の部分だけを映写します。
20分	グループでの話し合い ビデオの内容やパンフレットの内容を中心として、キーワードの「動詞」をテーマに、グループで自由に話し合います。	●グループでの話し合いは、ビデオの内容中心のグループ、パンフレット中心のグループ、参加者の問題提起中心のグループなど、多様な方が相互の学びが豊かになります。
10分	各グループの発表	
20分	まとめ	

95分(ビデオ視聴の前に休憩を入れる場合もあります。)

3. パンフレットと講演を活用する場合(項目だけの内容は、1. と同じです)

時間	活動	留意点
5分	研修の目的と概要の説明	
5分	アイスブレイキング	
5分	2人1組の着席とパンフレットの配布	
5分	エピソードの読み上げ	
5分	2人組での対話	
5分	対話の内容の発表	

60分	講演 エピソードに関係した公園によって、人権問題の現状や取組みについて情報提供してもらいます。	●講師の方には、あとのグループ討議につながるように、結論を押しつけるのではなく、問題提起型の講演をお願いしておきます。
20分	グループでの話し合い 講演の内容やパンフレットの内容を中心として、キーワードの「動詞」をテーマに、グループで自由に話し合います。	●グループでの話し合いは、講師への質問なども出してもらうようにすると、より内容が深まります。
15分	各グループの発表	
15分	まとめ 講師を依頼している場合は、進行者がまとめるのではなく、講師によって、グループから出た意見や質問にコメントしてもらう方が効果的です。	●この事例の場合は、研修の進め方やねらいを事前に充分講師と打合せする必要があります。場合によっては、進行者がまとめる場合もあります。

140分(講演のあと、休憩を入れる場合もあります。)

以上、3つの事例を紹介しましたが、

基本は[1. パンフレットを中心に参加者の対話やグループでの討論]を活用することにあります。

参加型学習の原則は、「参加者には力がある」と表現されることがあります。成人の学習の場合は、参加者がそれぞれの経験をもっていることを、一つの大きな資源とすることができですが、単に「お互いの経験を話し合ってください」と呼びかけても、何をしゃべったらいいのか戸惑うことになるでしょう。本書に掲載したエピソードや各種の資料は、参加者のそういった経験を互いに出し合って学ぶための触媒となるよう、開発されたものです。一編のエピソードが、対話の場合は2人を、グループでの話し合いの場合には4人を、今ある日常とは違う状況に連れ出し、その状況を借りて、お互いの対話から学んでいくことをねらいとしています。

その学習活動をより豊かなものとするためにビデオ教材や講師による講演を活用するという前提にしました。